



# 登山 月報

JMSCA

登山月報 第631号 令和3年10月15日発行  
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



ブロード・ピーク前衛峰

8月11日 みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

# No.631

世界ユース選手権大会報告	2
世界選手権(ロシア・モスクワ)大会報告	3
IFSCクライミングワールドカップ2021年シーズン 総括	4
第65回 全国高等学校登山大会	6
上級登山指導者リスクマネジメント研修会	7
寄贈図書	7
<b>新連載</b> 2021黒部の記録 その1	8
第18回山岳遭難事故調査報告書(2)	9
JMSCA、表紙のことば、編集後記	13

2021年8月21日～8月30日にロシア・ヴォロネジで世界ユース選手権が開催されました。今大会は2020年に開催予定で、新型コロナウイルス感染症の拡大により、1年延期となった大会でしたが、37カ国から417名の選手が参加しました。日本は、感染症対策として、従来のチーム規模(各カテゴリー3名)から、各カテゴリー1名+IFSC枠保有選手に規模を縮小し、男子8名、女子5名の選手を派遣しました。また、2024年パリオリンピックを見据えて今大会から初めてスピード単種目での出場選手を派遣しました。

## ◎ジュニア(2002-2003年生)

大会初日に、ジュニア・ユースAのスピード種目が行われ、竹田創が攻めの登りを見せて5位に入り、後に続く選手たちの士気を高めてくれました。ボルダリング種目では、男子予選から決勝までイギリスのハミッシュ・マッカーサーと僅差で競る形となり、最後のさいごまで展開の読めない接戦を繰り広げ、川又玲瑛が2位に入賞、IFSC枠保有選手として短種目に出場した百合草碧皇が4位に入りました。女子では、国際大会初出場の久米乃ノ華が決勝に進出、5位に入りました。リード種目では、女子予選・準決勝・決勝と全てのラウンドで1位という快挙を成し遂げ、久米が優勝しました。男子では、川又が冷静かつ粘り強い登りで3位に入賞し、両種目でメダルを獲得しました。

## ◎ユースA(2004-2005年生)

国際大会初出場の藤野柊斗と鈴木可菜美は、スピード種目に出場。鈴木は、自己ベスト記録を更新し、決勝ラウンドに進出しました。藤野は、プラクティスからうまくリズムがつかめず、予選ラウンドでスリップしてしまい、残念ながら本来の力を発揮することができず、決勝ラウンドに進むことができませんでした。

ボルダリング・リード種目では、国際大会出場経験のある上村悠樹が、リードで渾身の力を振り絞り、次位の選手と1手半差で優勝を勝ち取りました。IFSC枠保有選手の関口準太も決勝に進出し、落ち着いた登りで一手一手進めていましたが、惜しくも核心部をこえられず5位となりました。森奈央は、苦手とするルート・課題に阻まれ、惜しくも本領発揮することができませんでした。

## ◎ユースB(2006-2007年生)

全員が国際大会初出場という状況の中、全員が怯むことなく堂々とした登りを見せてくれました。特に、安

楽宙斗はリード予選・準決勝・決勝全て1位という圧巻の登りを見せ、ボルダリングも2位入賞と、大いに会場を沸かせました。抜井美緒は、ボルダリングは惜しくも決勝進出なりませんでしたが、リードでは準決勝からの巻き返しを図り、順位を上げて3位入賞を果たしました。最終日に行われたユースBスピード種目では、杉本侑翼が世界ユースで日本人初のメダル獲得という快挙を成し遂げました。河上史佳も冷静なレース展開で決勝に進出、自己ベスト記録を更新し、5位に入りました。

選手たちは、10日間という長丁場の試合でも集中力を切らすことなく、それぞれの持てる力をすべて発揮し、8個のメダルを獲得という素晴らしい成績を収めることができました。2017年から維持し続けていた国別ランキング1位は、惜しくも今大会で途切れてしまいましたが、今大会は例年に比べ、派遣選手数を制限しており、その中でこの成績を収められたことは、素晴らしい成果といえます。

一方で、今大会を通して、各国のチーム規模が年々大きくなってきており、ユース世代からの強化も進んでいる印象を受けました。特に、アメリカやイギリス、フランスは、チーム規模だけでなく競技力も向上してきているので、日本も引き続き次年度、次世代に向けた強化を図っていきたいと思います。2022年の世界ユースは、アメリカで開催される予定です。

まだこの先も、国内外問わず大会開催やチーム派遣について判断が難しい状況が続いていくと思いますが、選手をサポート頂いているたくさんの方々のご理解と暖かいご支援のおかげで、今回選手たちは大きな国際舞台で全力を尽くし、活躍することができました。本領発揮できなかった選手たちも、今回の貴重な経験は自身の糧となり、必ず未来につながると思います。この場をお借りして感謝申し上げます。



## 【スピード結果】

	氏名	所属	スピード
ジュニア男子	竹田創	日本体育大学	5位
ユースA男子	藤野柊斗	千葉商科大学付属高等学校	36位
ユースA女子	鈴木可菜美	千葉商科大学付属高等学校	15位
ユースB男子	杉本侑翼	名張市立北中学校	3位
ユースB女子	河上史佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	5位

## 【ボルダリング・リード結果】

	氏名	所属	ボルダリング	リード
ジュニア男子	川又玲瑛	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	2位	3位
	百合草碧皇	早稲田大学	4位	—
ジュニア女子	久米乃ノ華	船橋市立船橋高等学校	5位	1位
ユースA男子	上村悠樹	東京都立上野高等学校	9位	1位
	関口準太	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	—	5位
ユースA女子	森 奈央	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	24位	18位
ユースB男子	安楽宙斗	八千代市立大和田中学校	2位	1位
ユースB女子	抜井美緒	奈良県山岳連盟	8位	3位

※百合草・関口はIFSC 枠保有選手のため、単種目のみ参加

# 世界選手権 (ロシア・モスクワ) 大会報告

スポーツクライミング

星 多賀子

2021年9月16日から21日に、ロシア・モスクワでIFSC世界選手権大会が行われた。5大陸41カ国から301名の選手が参加した。日本からは男子7名(榑崎智亜、藤井快、緒方良行、高田知堯、天笠颯太、今泉結太、吉田智音)、女子6名(伊藤ふたば、谷井菜月、中川瑠、小池はな、中村真緒、阿部桃子)、スタッフ3名(星多賀子、小林由佳、水村信二)と日本スポーツ振興センター(JSOC)からサポート3名が参加した。

コロナ禍そしてWADAの影響で、モスクワでは選手権を行うことが困難と言われていた中での開催となった。4月から派遣している国際大会では、選手・スタッフが安心して競技に集中し、安全に帰国できるよう感染症対策とチームルールを制定し、随時更新しながらアスリート委員会の協力も得て臨んだ。

ボルダリング競技では、予選1位、準決勝3位で決勝に進んだ藤井快が、唯一全4課題を完登して優勝した。中でも全員が0完0ゾーンだった決勝1課題目を一撃し会場を魅了した。バランスよくバラエティに富んだ課題設定の中、全てのラウンドにおいて素晴らしいパフォーマンスで圧巻の登りを見せた。榑崎智亜も準決勝1位通過で決勝に臨み素晴らしいパフォーマンスを見せたが、1課題目で差がつき2位となった。5人中4人が世界選手権初出場となった女子選手は惜しくも決勝進出が叶わなかったが、世界選手権の舞台で戦うことで次の目標を定めることができた貴重な経験となった。

リード競技では男女8人中7人が準決勝に進出し、うち男女3名(榑崎智亜、緒方良行、谷井菜月)が決勝に進出した。谷井は予選24位通過となりプレッシャーがかかる中、強い気持ちで臨んだ準決勝を5位通過し決勝に駒を進めた。決勝ではダイナミックな動きも求められた中でベストを尽くし6位となった。榑崎智亜は上部

ゴール手前の一手ノーマルまで進んだが、同高度選手とカウントバックとなり5位となった。今シーズンリードは世界選手権が初出場となる緒方良行は、準決勝8位通過で大善戦し、決勝ではカウントバックで7位の成績となった。世界大会へは今シーズン初参加にもかかわらずワールドカップで決勝に残った選手である吉田智音、阿部桃子、中川瑠も準決勝で善戦し次の目標につながる貴重な経験となった。

成績は以下の通り。

### ■ボルダリング

1位 藤井 快	13位 伊藤ふたば
2位 榑崎智亜	14位 中村真緒
8位 緒方良行	16位 谷井菜月
10位 高田知堯	27位 中川 瑠
21位 天笠颯太	45位 小池はな
35位 今泉結太	

### ■リード

5位 榑崎智亜	6位 谷井菜月
7位 緒方良行	10位 阿部桃子
12位 吉田智音	13位 中川 瑠
13位 藤井 快	44位 小池はな
21位 高田知堯	

藤井快が優勝したことで、世界選手権におけるボルダリング競技では4大会連続で日本人男子が優勝となった。(2016年榑崎智亜、2018年原田海、2019年榑崎智亜、2021年藤井快) 海外や会場では、日本でジャパンカップを制するものは世界を制する、と評される中、組織的に強化を行い確実に力をつけてきているアメリカ他他国の存在も確認できた。パリオリンピックに向けて一層の強化を図っていく必要があると感じた。

次回の世界選手権は2023年スイスのベルンで行われる予定。

## 「世界選手権を振り返って」 藤井 快

私にとって5度目の世界選手権でボルダリング優勝することができました。若い選手が台頭している中、諦めずにチャレンジをしてきてよかったと思うことができた大会になりました。しかし、リードでは準決勝敗退、2年後の世界選手権までに成長をしなくてはならないと強く感じさせられた大会でした。

世界選手権の日程がボルダリング→リードだったことで、世界選手権での優勝の喜びで終わらず、リードでの悔しい思いを今シーズン最後に感じる事ができました。この思いは来シーズンへ向けたモチベーションになっています。そして、世界選手権で得た経験を糧にま

たトレーニング頑張ります。

最後に、今シーズンを怪我なく戦い抜くことができたのも応援してくださる皆さんがいたからです。本当にありがとうございました。また、コロナ禍における選手派遣、その他多くの手続きを行ってくださったコーチ、監督、JMSCA事務局の方々にこの場を借りてお礼を言わせていただきます。



## IFSCクライミングワールドカップ 2021年シーズン 総括

スポーツライミング  
安井 博志

2021年シーズンがワールドカップアジアラウンド(中国、韓国、インドネシア開催予定)の全戦中止という形で突然幕を閉じた。昨年はコロナ禍により日本代表選手を1大会も派遣できず国際競技大会から遠ざかっていたためシーズン開幕戦であるボルダリングワールドカップ第1戦マイリンゲン大会(スイス)では久しぶりとなる大会派遣に選手・スタッフ共に緊張感のある大会参加だった。しかし、大会へ行ってみれば久しぶりに会う各国の選手達との再会を喜ぶ姿と、国内競技大会では直接感じられなかった日本代表の重みを感じられ参加できた選手達はモチベーションが高まる良い機会であった。ただ、これまでのように参加枠全員を参加させることは困難であり、コロナ禍の中での国際大会派遣を如何にして安全に終え帰国させるかはシーズンを通して困難な課題であった。参加権があっても新型コロナ感染症対策のために参加させられなかった選手があったことは残念である。

大会期間中においても、PCR検査および抗原検査を何度も受けたが、ほとんどの大会で新型コロナウイルスに大会参加関係者が感染したという連絡があったため、渡航中は常に気を張った状態であった。また各選手はロープや食材を持参するためこれまでとは異なる多くの荷物を持っての渡航となり、競技以外の部分でも選手自身の対応力が求められたシーズンであった。

そして、各大会参加から帰国すると14日間の隔離期間が必要な対応が困難であった。しかし、スポーツ庁「帰国後14日間待機の代替措置」によりオリンピック選手などはバブル方式の生活をしながらトレーニングを継続することができたことが選手達のパフォーマンス向上には役立ったかと考えられる。この際には多くの関

係者やスタッフの協力により最適な練習環境が提供できたことには本当に感謝したい。併せて、シーズンを通して海外での行動規制やバブル方式の生活により選手達は多くのストレス下のもとでシーズンを過ごした日本選手達の労をねぎらいたいと思う。

さて、このようなシーズンの中でも日本代表チームの選手達は素晴らしい成績と記憶に残るパフォーマンスを発揮できた。(以下、成績一覧を参照)印象に残った場面は多くあるが特筆すべき事としては以下となる。

- ボルダリングワールドカップ・インスブルック大会  
日本人選手が表彰台独占(優勝:緒方良行)
- スピードワールドカップ・ソルトレイクシティ大会  
スピード初のメダル獲得  
(3位:野中生萌)
- リードワールドカップ・クラニ大会  
樋口純裕選手初優勝

まだまだ新型コロナウイルス感染症の終息は見えませんが、日本代表チームは歩みを止めず前へ進められる活動を継続していきたいと思います。今シーズンも多くのご支援ありがとうございました。



**【成績】IFSCクライミングワールドカップ2021 国別ランキング**

「ボルダリング」	1位	日本 (1235.0)
	2位	アメリカ (1088.0)
	3位	スロベニア (798.0)
「リード」	1位	スロベニア (1244.0)
	2位	日本 (1041.0)
	3位	アメリカ (905.95)
「スピード」	1位	インドネシア (503.0)
	2位	ポーランド (447.09)
	3位	アメリカ (396.8)
	6位	日本 (140.55)

**【選手コメント】**

**樋口純裕 リードワールドカップ・クラニ大会 男子個人優勝**

たくさんの人たちが祝福メッセージをくれて、こんなにも多くの人たちに応援してもらっていたんだと驚きました。普段からサポートをしてくれている人たちと一緒に戦っている仲間、応援してくれる人たちのおかげで今回の優勝を掴み取れたのだと思います。ここから勝ちを

重ねていくのは難しいかもしれませんが、ゆくゆくはパリへ向けてより一層の努力をしていきます。

**緒方良行 ボルダリングワールドカップ・インスブルック大会 男子個人優勝**

昨年は新型コロナ感染拡大の影響で、国際大会は軒並み中止となり、選手にとっての活動の場は大きく縮小されました。今年も感染拡大が続く中で、こうして国内外問わず、大会へ参加できたことは奇跡だと感じます。大会の運営や派遣にご尽力いただいた関係者の方々には、心から感謝致します。

今年はボルダリングワールドカップ最終戦で優勝、年間ランキングでも1位を獲得することができました。ワールドカップへ出場し続けて9年目にして、また一つ目標を達成することができました。次の目標はパリ五輪でのメダル獲得です。残すところわずか3年ですが、さらに強化し、前進したいと思います。

**2021年 ボルダリング日本代表 大会参加者及び成績一覧**

**【男子】**

No.	名前	IFSC Boulder World Cup 2021			
		1st Meiringen	2nd Salt Lake City	3rd Salt Lake City	4th Innsbruck
1	榑崎 智亜			3位	2位
2	原田 海			34位	13位
3	藤井 快	4位	4位	2位	3位
4	緒方 良行	2位	16位	4位	1位
5	杉本 怜	21位	17位	18位	10位
6	天笠 颯太	6位	14位	13位	15位
7	高田 知堯	3位	22位	32位	16位
8	渡部 桂太	25位			35位
9	今泉 結太	25位			
10	百合草碧皇				25位

**【女子】**

No.	名前	IFSC Boulder World Cup 2021			
		1st Meiringen	2nd Salt Lake City	3rd Salt Lake City	4th Innsbruck
1	野口 啓代	4位		18位	5位
2	野中 生萌	7位	4位	6位	6位
3	伊藤ふたば		7位	9位	4位
4	中村 真緒		10位	14位	10位
5	石井 未来		33位	32位	48位
6	中川 瑠		38位	19位	
7	倉 菜々子				20位

**2021年 スピード日本代表 大会参加者及び成績一覧**

**【男子】**

No.	名前	IFSC Speed World Cup 2021	
		1st Salt Lake City	2nd Villars
1	榑崎 智亜	38位	
2	原田 海	34位	
3	北見 宗和	35位	—
4	安川 潤	6位	51位
5	竹田 創		30位

**【女子】**

No.	名前	IFSC Speed World Cup 2021	
		1st Salt Lake City	2nd Villars
1	野口 啓代	13位	
2	野中 生萌	3位	

**2021年 リード日本代表 大会参加者及び成績一覧**

**【男子】**

No.	名前	IFSC Lead World Cup 2021				
		1st Innsbruck	2nd Villars	3rd Chamonix	4th Briançon	5th Kranj
1	榑崎 智亜	9位				
2	原田 海	24位				
5	藤井 快	11位	9位			
3	吉田 智音	20位	13位	26位	47位	6位
4	樋口 純裕	4位	8位	9位	12位	1位
6	天笠 颯太	41位	17位	16位	20位	
7	田中 修太	80位	14位			
8	村下 善乙		7位			23位
9	百合草碧皇	10位				8位
10	中上 太斗					24位

**【女子】**

No.	名前	IFSC Lead World Cup 2021				
		1st Innsbruck	2nd Villars	3rd Chamonix	4th Briançon	5th Kranj
1	野口 啓代	3位				
2	野中 生萌	5位				
5	谷井 菜月			5位	9位	8位
4	中川 瑠			19位	5位	15位
6	阿部 桃子	13位	4位	11位	25位	12位
7	田嶋あいか					
8	柿崎 未羽	28位	23位			
9	伊藤ふたば	9位	21位			
10	小武 芽生					21位
11	高尾 知那		30位			17位

## 第65回 全国高等学校登山大会

令和3年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第65回全国高等学校大会は8月20日(金)～23日(月)の日程で、福井県勝山市を会場に全国45都道府県から440名の選手・監督と100名を超える役員が参加して開催された。

昨年度の群馬大会は史上初めて、インターハイ全競技が中止となり、準備にあたっていただいたみなかみ町、片品村をはじめとする群馬県の皆様方には大変ご無念であったことと推察されます。それだけに今年の福井大会に向けては、感染防止対策に万全を期し、現在の状況でも開催可能な運営が検討された。

主管する福井県では当初予定していたコース、日程を短縮することにした。当初予定していたコースの入下山口へは小型バスを使用せざるをえず、密を回避することが困難との判断からです。また、設営、炊事をどのように行うかが大きな課題となった。

設営審査は開会式場近くのグラウンドで実施し、宿泊については、男子は開会式を行った勝山市体育館ジオアリーナのフロアにて、チームごとに分けられたエリアを使用、女子は奥越青少年自然の家を宿泊定員の半分で使用することとした。宿泊場所を固定したのは接触によるリスク軽減のためである。炊事審査は実施せず、朝食夕食は運営側による調達支給とした。

開会式前日の8月19日に大会参加者は全て福井県内に集結し、諸会議など準備態勢を整えた。会場地だけでは宿泊需要をまかないきれず、遠方配宿となったパーティーは移動に時間をとられてしまったが、夕刻には翌日からの登山行動に備えて行動食等の買い出しに向かうパーティーもあり、準備は着々と進んだ。

8月20日はパーティー間で区切って、消毒をしながらの入場となった。アリーナのフロアを目いっぱい使用して、人と人の間隔を大きくとった配席で、役員席を二階観客席とし、無観客で開会式を実施した。隊編成、知識

審査とスムーズに進行した後、コース隊編成、幕営審査、引継ぎ式、宿泊と一連の行動が予定通りスムーズに実施された。宿泊については異例の措置であり、特にアリーナ泊となった男子の中には十分に休めなかった者もいたかもしれないが、それでも灼熱のグラウンドでのテント泊よりは快適な環境ではあったろう。そんな中で選手・監督が安心して快適に大会日程を過ごすよう尽力してくれた役員・関係者の皆様には感謝にたえない。

8月21日は菩提林入り口からチーム行動を開始し、越前禅定道を辿り、平泉寺白山神社の境内を経て三頭山への急登を乗り越え、大師山から越前大仏へと下ってくる周回コースで、早朝の清々しい木立の中、歴史を味わいながらめぐることができる。当日は先行するコース役員から体長1mの熊を発見したとの無線が入電し、本部に緊張が走ったが、谷の向こうに消えていったとの連絡が続き、一安心する。お盆明けという時期も幸いし、山中では爽やかな風が吹きわたり熱中症等の心配をあまりせずすんだ。しかし数日前の雨天の影響もあって、登山道を多人数が連続して通過することでぬかるみは避けることができず、ズルズルと難渋しながらの下山となった。

8月22日は東山いこいの森から取立山、こつぶり山をめざし、ここで監督と合流してパーティー行動で大滝を眺めながら下山する周回コースで、登山行動最終日であるため余裕をもって行動ができた。天候に恵まれれば白山を仰ぎ見る絶好なロケーションであったはずだが、残念ながら雲にはばまれてパノラマはかなわなかった。見損ねた皆さんはまたの機会にこの山域を訪れて欲しい。

ジオアリーナに戻り審査関係の返却の後に解団式を実施し、お世話になった役員の方々への感謝の思いを伝えることができた。

8月23日の閉会式もまた、無観客で挙行了した。当然のことであるが、帰郷した参加者から感染者が発生したという報告はない。ひとりひとりができる限りの注意を払



い、正しく恐れ正しく行動した結果である。

野外活動である登山は、気象条件その他の影響を直接にこうむる宿命にある。そのうえ新型コロナウイルス感染症への対応という、誰もが経験したことのない状況

下で、無事に大会を開催されフィナーレを迎えることができたことはひとえに福井県、勝山市をはじめとする地元の方々のご尽力の賜物である。改めて御礼を申し上げます。  
(前田善彦 記)

## 上級登山指導者リスクマネジメント研修会

令和3年度上級登山指導者リスクマネジメント研修会は9月18日(土)～19日(日)の2日間、兵庫県神戸市の神戸登山研修所を会場に、国立登山研修所とJMSCA、全国高等学校体育連盟の主催で開催された。様々な行事が中止や延期、webでの開催を余儀なくされている中で、研修生が主体的に討議に参加することを旨とする本研修会は、かなうものならば対面で実施をと事前に周到に準備を行い、開催に至った。緊急事態宣言が発令されている地域もあり、参加者は地元の方々が多数を占めたが、その出身母体は岳連、ガイド、警察消防、高体連と多岐にわたり、多様な意見が飛び交うことが期待できた。

研修会を通じてのテーマは「アクティブラーニング」。一般の方々には耳なじみのない言葉だが、「主体的で対話的な深い学び」という新しい学力観の中心をなす概念であり、これからの教育の方向性を示すものである。それぞれの組織等で研修会等を主催する立場にある指導者を対象とする研修会にふさわしく、受け身ではなく自分ごとととらえて課題を解決し、自分で正解を発見できる手法を体験して身につけてもらい、全国に伝達することが狙いである。

講義①は主任講師で愛知岳連理事長の北村憲彦先生の「安全登山の仕組みとプランニング」。

講義②は静岡大学教育学部の村越真先生の「指導者

のためのリスクマネジメント」。

講義③は弁護士でJMSCAガバナンス委員でもある溝手康史先生の「法律から学ぶ登山のリスクマネジメント」。

いずれの講義も当代一流のものであり、しかもそれぞれの講義の中で適宜、グループに分かれての討議が組み込まれていて、参加者は対話の中から学びを自分のものにしていく仕掛けが設定されている。自分が指導者となって研修会を実施する際のヒントがちりばめられており、スキルの向上がひしひしと感じられる。

そして最後にグループワークとして「安全で効果的な登山のリスクマネジメント」をテーマに、研修会を開催する想定に即して講習の目標やリスクマネジメント計画、指導計画等を作成し発表する演習を実施した。

いずれのグループも意見がどんどん出ていき、もっともっと時間があればと感じられる2日間となった。

国立登山研修所では安全登山の推進のため、さまざまな研修を設定している。受講生自身の成長と同時に、それぞれがそれを持ち帰り、広げていくことが期待されている。皆さんも機会をとらえて積極的に参加されたい。

最後に新型コロナウイルス感染症に万全を期し、研修会場をご用意いただいた兵庫県山岳連盟に感謝いたします。  
(前田善彦 記)

### 寄贈 図書

#### 寄贈 本 広 報 誌 新 聞

三峰山岳会	「岩つばめ」No. 365
神栖志企画部広報戦略課	広報「かみす」9月1・15日号
(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」2021年8月号 No. 39
(特非)日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol. 84
(株)山と渓谷社	「ROCK & SNOW」No. 093
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第651号
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」10月号 No. 892
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.57
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2337号
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」10月号 No. 892
山と渓谷社	「山と渓谷」10月号 No. 1041
(公社)日本武術対極連盟	「武術対極拳」9月号 No. 379
(公社)日本山岳会	「山岳」Vol.116
(公社)日本山岳会	「山」2021年9月号 No.916
東京野歩路会	「山嶺」Vol.99 No.1099
長野県山岳協会	「やまなみ」No.242
大阪府立体育館	「季刊 府立体育館」No.137号
おいらく山岳会	「山行手帖」No.742
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」9月号 第486号
(株)ソル・メディア	「CLIMBERS」No. 021
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第356号
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第442号
日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.498
(株)山と渓谷社	「山岳気象遭難の真実」
(公財)日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」「JSPOフェアプレイニュース」Vol.132、「JSPOスポーツニュース」特別号
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2336号
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2338号

# 新連載 2021黒部の記録 その1

## 山本 大貴

1986年兵庫生まれ。関西学院大学山岳会所属。高校までサッカーに明け暮れるも、TV番組『情熱大陸』フリークライマー小山田大にて、クライミングと出会う。大学入学後、山岳部のクライミング体験会に騙され、登山の門をたたく。登山はしつこく続ける中で、山の楽しさに魅了され、現在に至る。クライミングと雪山が好み。

長期間山で過ごせることへの解放感、広大な山の中で確かなゴールへ近づいていることが感じられることへの日々の充実感、初めての黒部横断は本当に楽しむことができた。普段の1泊や2泊の短い山行と異なり、どっぷりと山に浸れる贅沢な時間を過ごせ、また、後立山からみた剣岳は遥か彼方。歩けば到達できるし、歩かなければ到達できない、という至ってシンプルなルールの中で自分たちの知恵と行動、判断でゴールに近づいていく登山の醍醐味を堪能することができた。

私の中で、今回の黒部横断は3年前の失敗から始まっているといっても過言ではない。標高差にして400m、2018年の牛首尾根からの滑落でたどり着いた黒部川も、今回はしっかりと歩いて渡ることができ、前回の到達点を越えられたということで、一つのけじめがつけられた。十字峡に降り立った時には緊張感は緩み、それと共にこの3年間で抱えてきたモヤモヤした気持ちから少し解放された気がした。

結果的には18日間で、新越尾根から十字峡へ至り、ガンドウ尾根から八ツ峰4稜、剣岳山頂へとほぼ予定通りの行程を終えることができた。

しかしながら、また2回も落ちてしまった。4日間の降雪後の仙人新道の下降時に足元から表層雪崩、八ツ峰Ⅳ-V峰間にて雪庇の踏み抜き。どちらも初めての経験で、どこかで聞いた”ホントよく落ちるやつ”と不名誉な称号を頂けそうなほど、稚拙な行動から危ない結果となってしまった。幸い、大きなけがなく山行が続けられたのは不幸中の幸い。雪崩れた方は足元から表層が動き始め、気づいた時には動く雪から下の硬い雪面へ着地、距離にして10m弱。破断面は1mから大きなところで2m、幅50mほどだろうか。

落ちた雪庇は、八ツ峰V峰手前、奥行3m幅10mほど。稜線の形状がU字型になっており、他と比べ雪庇が非常に大きく、足元から切れ落ちた。雪が割れる轟音と共に、真っ逆さまに落ちていき、距離にして15mほど、気づいた時にはロープテンションで止まってい

た。落ちた先は傾斜が90度近いため、あまり壁に強打することなく、少しの鼻血とサングラスを落とすだけ。その後の行動では、稜線の雪庇に対してかなり臆病になり、リッジ上をなかなか歩けなかったことは言うまでもない。

以下、行動記録：

### 2/8 day 1 ⇒ 新越尾根 取り付け

日向山ゲート前で共同装備の振り分け、パッキングを済ませ出発。一応ジャンケンで振り分けるも、年長者上田さんには気遣い、若者2人は重そうな装備を選択する。

自分は、早々に食べきるであろう肉をゲットした。これだけで重量計2.5kg、生ハム(1.5kg)、ローストビーフ(1.0kg)となかなか贅沢なおつまみである。バックパックは体感で35kg弱、背中への荷物は重たいけれど、明日からの期待を胸に出発した。本日の行動は3時間と少し。扇沢を過ぎ、新越尾根の取り付けで幕営。



入山時の荷物は35kg程度

### 2/9 day 2 ⇒ 新越尾根上 2350m

ようやく山に入ったと実感できた1日。まず目指すべきは、後立の稜線。雪が少ないかなと感じた歩き初めに比べ、標高を上げるとともに、しっかりとしたラッセルとなり本格的な冬山気分。時折、吹き溜まりでは腿ラッセル程度。2150mあたりの急登からロープを出し、先頭は空荷ラッセルで順調に標高を上げていくも、午後になり風が強くなってきた。稜線は超えられないと判断し、樹林帯の適当な斜面を整地し、幕営となる。夜間も風が強く、寒い夜であった。



# 第18回山岳遭難事故調査報告書(2)

## コロナ災禍にある登山活動

### 山岳組織活動のパロメーター

#### 1. 変革期にきた山岳組織

図に示したJMSCA、登山参加者の年齢分布は非常に類似した曲線を示し、かつ、我国の登山者の年齢分布にも類似すると考えている(図6)。

その曲線のピークを描く登山団塊(1940-1955生まれ)に着目すると、当世代の高齢化による影響は非常に大きく、10年後には我が国の登山者の構成が根本的に変わると予想される。

山岳組織としても、従来型の登山イメージを持つ登山団塊世代から、各種アプリ・ソフトを使いこなす次の世代へ、山岳組織のあり方、登山スタイル、登山教育などを検討する時代に入ったと考えている。

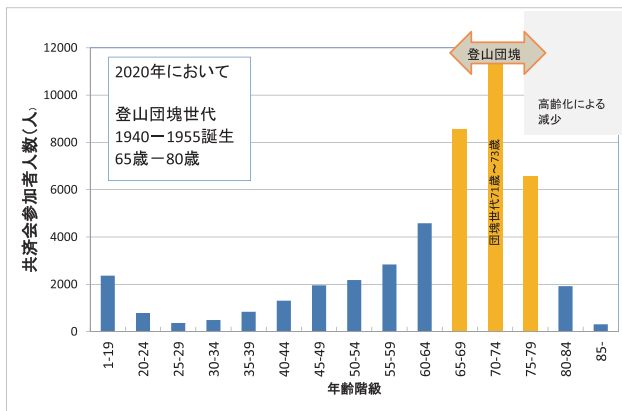


図6 JMSCAの参加者年齢分布による検討

JMSCA、登山の参加者は、我が国の登山者年齢分布を代表すると推定している。登山団塊世代が高齢化にともないシフトしていく、その変化を示す年齢層は65-69歳の減少に現れる

#### 2. 急拡大するアプリソフト

最近の登山のアプリケーションソフト機能は、Bigデータを背景に、日々、登山計画やナビ支援などの機能が急速に発達してきている。大多数の一般登山にとって、GPS関連精度の向上と共に、信頼性が向上し、カーナビなみに受け入れられる段階に達してきた。

既に、ルートを設定すれば、そこから外れると逸脱警告がでるソフトが開発され、登山計画ソフトも今は単純だが、入力者の体力、登山道グレードに応じたものになるのは時間の問題となっている。

このような時代に向かって、一般登山者はどのよう

な山岳組織を必要とするのであろう。

#### 3. 今後、発展する組織評価チェックリスト

- ①明確な活動理念を持つ。
- ②社会的認知度が高い。
- ③社会的信頼性を持つ。
- ④メディアとつながりが深い。
- ⑤官公庁とのつながりが強い。
- ⑥国家的ライセンスを管理する。
- ⑦急発展するアプリ・ソフトなどの世界と同期できる。
- ⑧登山用具店や山小屋などつながりが深い。
- ⑨UIAAなど世界的登山組織と連携できる。
- ⑩情報の収集・管理能力に優れている。
- ⑪登山活動での各種人材が豊富である。
- ⑫安定した財源を持つ。

### JMSCA/登山は何点?

#### レジャー白書から登山者人口の推定

2020年のコロナ災禍による影響が、登山者人口にどのように及んでいるのか、白書の出版が9月のため分からない。

2009年頃の登山ブーム(最大1230万)に比べると、2016年~2019年では約半数(650万)にまで落ち込んでいる(図7)。一方、登山への関心度を知る「余暇活動参加率」が長い間10位以内に入っていたが、今回より消え、登山活動への関心が低くなっていることを物語っている。

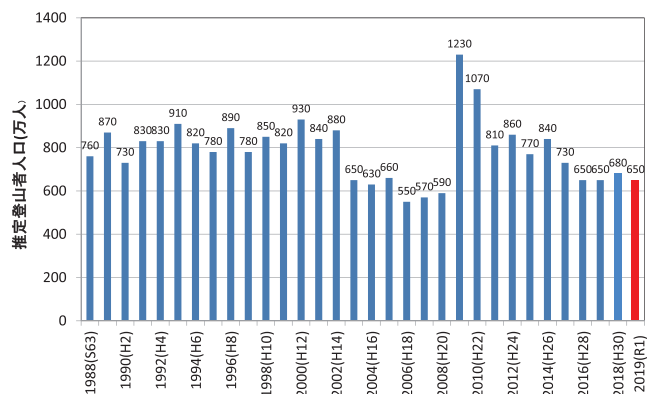


図7 登山者人口の推移

### 登山ブーム後の安定区間へ

## 2020年警察庁の事故データ

本データは、毎年6月末に公表される警察庁の事故統計を基に、再分析後・データ加工したものである。

なお、警察庁では2020年1月から12月までの調査結果としている。

## 2020年山岳遭難事故の傾向

2020年の事故統計では、遭難件数2294件、遭難者数2697人となり、対前年度より240人ほど減少した(図8)。

遭難者数の減少には、コロナの影響と高齢化による減少が考えられるが、県別事故データなどから圧倒的にコロナの影響が大きいと考えられる。

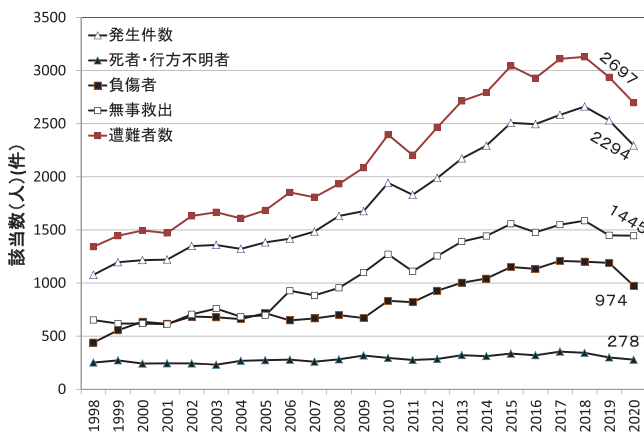


図8 事故の経年変化 (1998 - 2020)

## コロナと高齢化による2年越しの低下

### 1) 事故者の年齢分布

事故者の年齢分布は、図9に見られるように、60歳以上が半数を占める。かつて中高年と呼ばれた40歳以上では78.5%に達し、若手は僅か21.5%に過ぎない。登山者と事故者の年齢分布

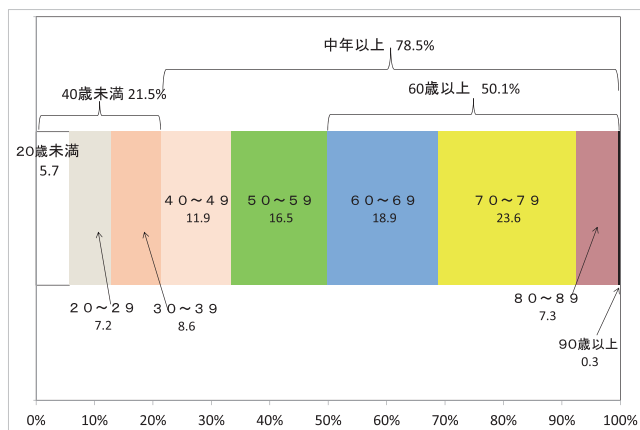


図9 事故者の年齢分布

40歳未満(0~39)の事故が70歳世代よりも少ない。背景には青年登山者の少なさ

ほぼ同じと言われているため、登山団塊世代が去った後、登山者数が大幅に減少することが予想される。

図10は登山団塊事故の世代変化を4年おきに描いたもの、図11は各世代の割合を経年的に描いたものである。両図から、70歳以上が突出しようと変化していることが分かる。

本年はコロナの影響で、登山団塊の動きが掴みにくかったが、2020年より、その先頭80歳代が急速に増加しており、注目している。

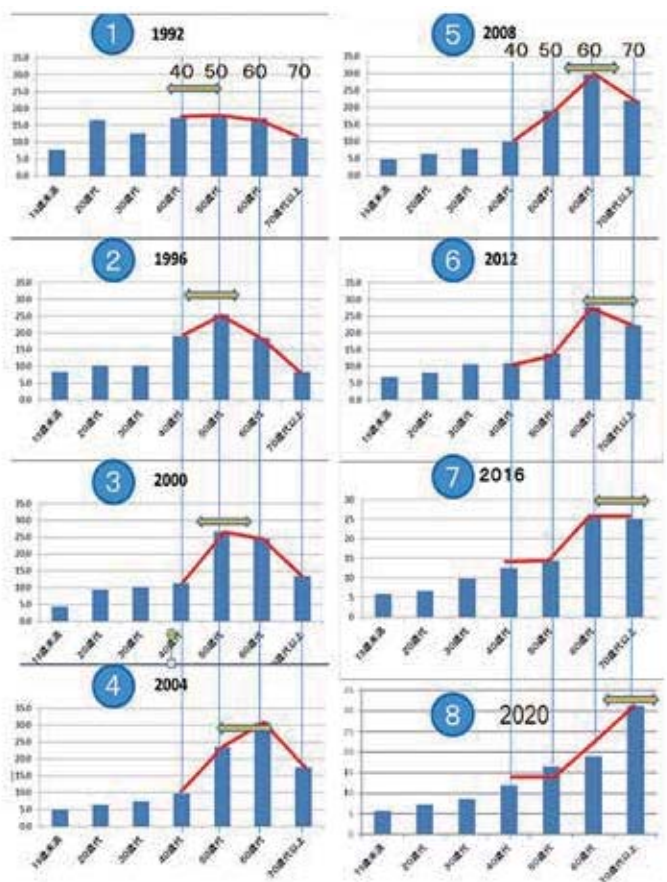


図10 1992年から4年おきに2020年まで事故年齢分布曲線のピークがシフトする様子を示した。

### 高齢化する登山団塊世代

昭和15年~昭和30年(1940-1955)生まれ、図中黄色矢印は団塊の年齢幅を示す  
安全登山は70歳世代の動向が鍵を握る

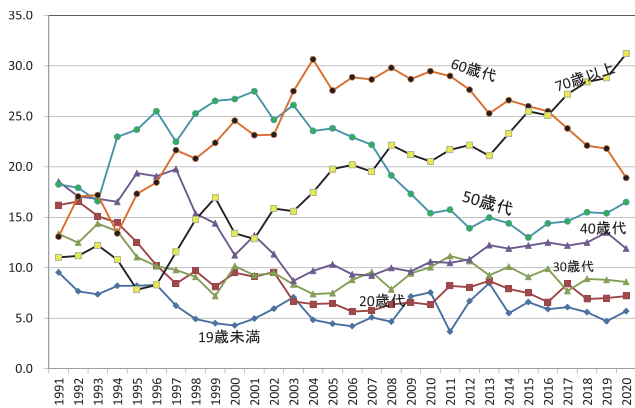


図11 各世代の事故者割合に見る、経年変化

60歳世代の低下と70歳世代の増加、その原因を作る登山団塊の老化

## 2) 登山目的

例年、登山目的では、登山系：非登山系＝7：3の割合で事故が発生する。今年もあまり変化はないが、各項目ごとに、対前年度を見ると、コロナの影響を大きく受けている事が分かる(表3)。

前年度より大きく減少した項目は、登山、スキー登山、沢登り、観光登山であり、増加した項目はハイキング、山菜採りであった。

本格的な登山／観光を諦め、近場でのアウトドア活動を楽しむハイキングや自然観賞に活動をシフトしていることが良く分かる。

表3 登山目的別事故の比較

		令和1年	令和2年	前年度差
登山系	登山	1902	1681	-221
	ハイキング	159	233	74
	スキー登山	70	43	-27
	沢登り	57	42	-15
	岩登り	35	39	4
非登山系	山菜採り	360	381	21
	溪流つり	41	40	-1
	作業	36	38	2
	観光	62	33	-29
	写真撮影	15	13	-2
	山岳信仰	8	4	-4
	自然観賞	12	22	10
	狩猟	9	6	-3
	その他	171	122	-49
	遭難者数	2937	2697	-240

コロナの影響を受けた登山目的

## 3) 事故態様

六甲山のYouTubeでも紹介されたように、コロナの影響で、普段あまり登山をしない人々もアウトドア志向で、近郷の山に入ることが多くなった。多くの場合、地図も持たないし、持っていても読図能力に乏しいため、道迷い事故が多発した。道迷い事故の割合が44%は過去最大である(図12)。

滑落、病気、疲労が少なくなり、動物・昆虫との事故も機会減少のためか、少なくなった。

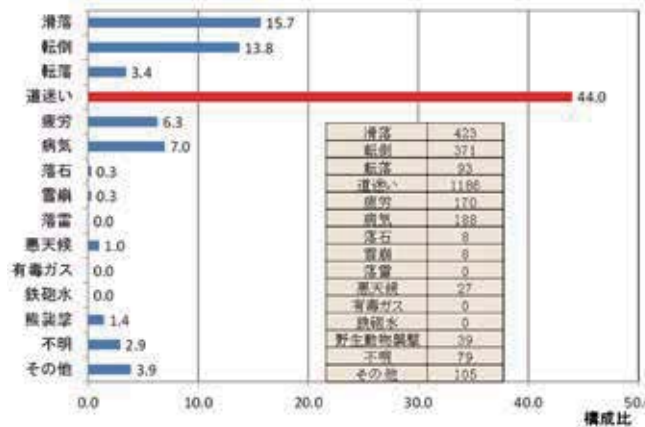


図12 事故態様の割合と該当数について

さらに増加する道迷い事故

## 4) コロナによる登山活動域の大変化

コロナの影響により、事故の発生件数の順位が大きく変化した。上位2位までは変わらなかったが、6県が上位枠に入ってきた。最も著しい増加は神奈川県で、首都圏から近く、日帰り登山が多い大山では過去最多となった。

ケーブルカーで途中まで登れるなど、兵庫県六甲山も類似している。

表4 県別事故上位10、2019年と2020年比較

	2019年		2020	
1	長野県	265	長野県	183
2	北海道	202	北海道	176
3	山梨県	165	神奈川県(8)	144
4	富山県	147	兵庫県(5)	114
5	兵庫県	126	山梨県	111
6	新潟県	109	東京都(7)	110
7	東京都	106	群馬県(11)	85
8	神奈川県	104	青森県(16)	82
9	静岡県	90	滋賀県(15)	79
10	岐阜県	84	新潟県	76

黄色( )は2019年順位

全県別に見た登山事故の増減はコロナの影響が非常に明確な結果となって現れた。

長野県以下、主な登山県では登山事故が大幅に減少した。それに対して、東京以下、大阪府、愛知県、福岡県、京都府などの主要都市とその近郷に山を持つ県では増加した(表5)。

表5 事故の減少県と増加県

事故減少県		事故増加県		
1	長野県	-82	神奈川県	40
2	富山県	-73	青森県	18
3	静岡県	-56	茨城県	17
4	山梨県	-54	鹿児島県	15
5	新潟県	-33	宮城県	13
6	北海道	-26	愛知県	13
7	福島県	-26	滋賀県	12
8	山形県	-22	福岡県	11
9	岐阜県	-16	奈良県	10
10	兵庫県	-12	大分県	10
11	石川県	-8	大阪府	9
12	三重県	-8	埼玉県	8
13	宮崎県	-7	福井県	5
14	秋田県	-5	山口県	5
15	岩手県	-4	東京都	4
16	島根県	-3	群馬県	4
17	千葉県	-2	広島県	4
18	岡山県	-2	高知県	3
19	徳島県	-2	佐賀県	2
20	香川県	-1	熊本県	2
21	愛媛県	-1	栃木県	1
22	長崎県	-1	京都府	1

無変化(和歌山県、鳥取県、沖縄県)

コロナによる登山域の変化

### 5) 警察の遭難対策活動の結果

(死者・行方不明者-負傷者-無事救出)の割合を三角グラフで表した。プロットが上に行くほど安全側に推移し、下側に行くほど傷害を負う。さらに、右下側では死亡・行方不明が多くなり、深刻な状況に至る。

遭難対策活動の経年変化は1980年から、2020年にかけて段階的に無事救出の割合が高くなっており、遭対運動の効果が上がっている(図13)。その背景には、道迷いが多くなっていると思われる。

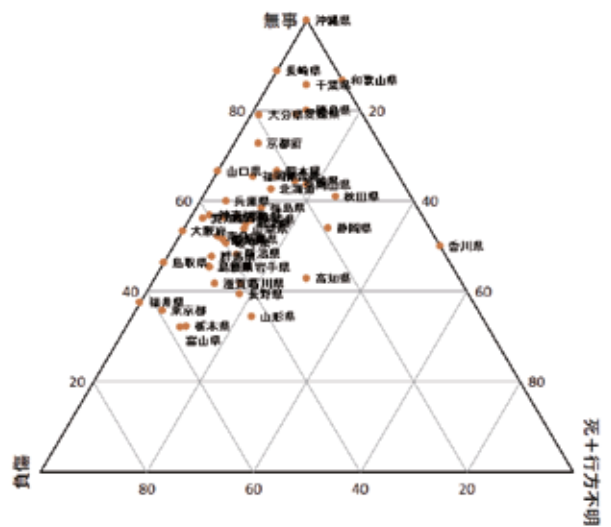
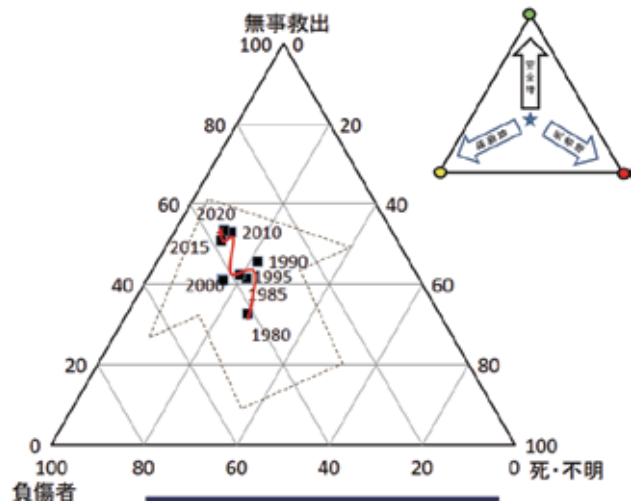


図13 警察遭難対策活動の推移

図14は、47都道府県における、活動状況を示している。沖縄をトップに長崎、千葉、和歌山では大半が無事救出となり、香川、高知、静岡などは死亡・行方不明の割合が高い事を意味する。ただし、四国は事故者の数が少なく、事故の傾向と特徴が強く表れる。

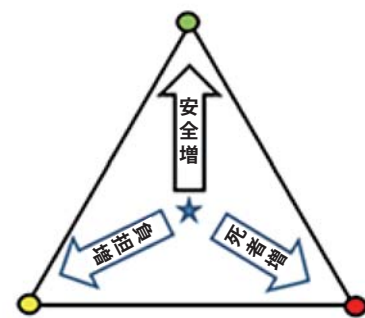


図14 都道府県別に見た遭難対策活動状況

○日時：令和3年9月9日(木)  
14:00～17:00

○場所 Web会議

○出席者 丸会長、小日向、高野各副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、水村、青山、栗田、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中畠、古屋各監事

○欠席者 亀山副会長、水島理事

○同席者 西原国体委員長

## 1. 開 会

2. 会長挨拶に続き、以下の様に進行した。

## 3. 会議成立状況報告

理事数 24名中 22名出席

監事数 2名中 2名出席

(定款第33条、定足数=12名 1/2以上)

## 4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

## 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

ホストは小野寺専務理事が務める

※理事の辞任(8月23日付)について(報告)

羽鎌田常務理事・事務局長の辞任について小野寺専務理事から報告、丸会長から状況説明があり了承された。事務局長後任については、現在候補者に接触、内定した。最初は事務局員としての採用となる。

## 6. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

2021年度第6回理事会議事録の承認について(事前送付済)

事前にメール送信しており、全員一致で異議なく承認された。

議案第2号 規程の改定について

アスリート委員会規程について

山口理事から資料に基づいて提案があった。全員一致で異議なく承認された。

組織管理運営規程について

古賀常務理事から資料に基づいて提案があった。

議論はSDGs推進委員会の設立趣旨と他の委員会との違い、統括者を誰にするかに集中した。次の2つに分けて採決を行った。1つは、今回提案の組織管理運営規程全般について、もう1つは、SDGs推進委員会の統括者についてである。

●組織管理運営規程全般については、この時の参加者で議長を除く20名全員一致で異議なく賛成した。

●SDGs推進委員会の位置づけについては、主管理事が統括することについて、この時の参加者は1名zoomから抜けており、議長を除く20名全員一致で異議なく賛成した。従って2章の2項の

条文は常務理事会の審議と異なり、「アンチドーピング委員会、ガバナンス委員会及びSDGs推進委員会を除く委員会は事務局長及び専門部主管理事が統括し、アンチドーピング委員会、ガバナンス委員会及びSDGs推進委員会は主管理事が統括するものとする。」になる。

●新設委員会・理事の担務について  
常務理事会承認なので報告として行った。

議案第3号 オリンピック選手への報奨金(規程あり)授与について

以下の意見が出た。

まず、先日の東京オリンピックに対して協会としてどのように評価するのか、Reviewすべきである。

総括については、金メダルを目指していたが取得できず、目標達成はならなかった。一方選手、スタッフ、関係者の努力は素晴らしかった。選手からは「他の選手の事も忘れないでほしい」と言われているのも事実。総括は理事会中心に行うべきである。

●以上の意見を踏まえ、規程通り授与することになった。

議案第4号 オリンピック関係者への報奨金について

●いろいろな意見が出たが、最終的には会長、専務理事に一任になった。

議案第5号 UIAAアイスクライミング委員会・正規委員の推薦について

小野寺専務理事より資料に基づいて提案説明があった。

提案のあった山崎剛氏はSC部に属している。ACCのAspirantでもある。応援意見もあり、全員一致で異議なく承認された。

議案第6号 日本スポーツ賞の推薦について

小野寺専務理事より資料に基づいて提案説明があった。SC部に推薦を依頼することになり村岡常務理事SC部長も了解した。

## 7. 報 告

報告第1号 8月度月次決算について

相良常務理事から資料に基づいて報告があった。以下補足説明があった。

山岳遭難セーフティカード収支については数年来遭対事業の中に入っている。ただ、セーフティカードとしての科目にはなっておらず、今後は入れさせて頂きたい。予算管理規程では委員長が予算の責任を持っている、と書いている。月々の収支決算においてももし疑問があれば経理担当に連絡してほしい。

報告第2号 各委員会常任委員について

SC国際委員会について常務理事会で承認され、小野寺専務理事から資料に基づき、報告があった。

報告第3号 三重国体中止と課題について

同席の西原国体委員長より資料に基づき報告があった。ブロック大会において選手登録されていない選手が参加した例もあったとのこと。本来予選会参加から選手登録しなくてはならない規程に

なっている。該当県岳連に対して連絡している。

報告第4号 後援名義承認について  
福井県山岳連盟「旗護山縦走と敦賀半島・新ルートを辿る」について  
小野寺専務理事より資料に基づいて報告があった。例年通りである。

報告第5号 資金調達支援制度について  
小野寺専務理事より資料に基づいて報告があった。時間のある理事は説明会に参加してほしいとのこと。

報告第6号 スポーツ団体における女性役員・マッチング支援について  
小野寺専務理事より資料に基づいて報告があった。

報告第7号 役員派遣について

(9月10日(金)～10月13日(木))

(1)上級登山指導者リスクマネジメント研修会 9月18日(土)～19日(日)

於：神戸登山研修所 小野寺専務理事

(2)SC主任検定員養成講習会東京会場

10月9日(土)

於：クライミングジム「ギリギリ」

藤江委員長

※会長からの報告があった。JMSCAの名称をPublicしていきたい。9/16のFM東京にルートセッターの岡野寛氏が出演する。SNSのfollowerになって頂きたい。

※水村理事より、昨年開催予定だったクライミング国際学会を1年延ばしてもらい、今年の11月にオンラインで開催予定になっている。オリンピック振り返り特集がある。HPでも掲載お願いしたい。

※予算委員会の開催予定もお願いしたい。これについては相良常務理事にスケジュール作成を依頼した。

8. 会務・役員派遣(8月13日(金)～9月8日(木))

(1)インターハイ 8月19日(木)～23日(月)

於：福井・勝山市体育館ジオアリーナ

丸会長、前田理事、野村理事

令和3年9月9日 記録 小野寺 斉

## お知らせ

令和3年度の登攀技術に関する

・指導者の登攀研修会

・主任検定員養成講習会

(A級・B級)

・山岳コーチ2養成講習会

の開催日時が下記に変更になりました。

令和3年11月6日～7日



令和4年3月20日～21日

開催場所は、変更ありません。

## 「ガンバ! 負けるなガバちゃん」

8月号より開始!

主人公のガバと、白猫先輩カチの4コマ漫画 作者:未来



## 表紙のこぼ

今月の表紙写真は、ブロード・ピークの前衛峰です。左奥がブロード・ピーク(8,051m)の頂上。この前衛峰を超えてから8,000mラインの頂上稜線が続きます。

1978年6月2日、フランスのヤニック・セニユールとジョルジュ・ベタンブールは、アルパインスタイルで登頂したと伝えられたが、後にベタンブールは、自著で頂上まで行けず、途中で引き返したことを明らかにした。頂上の場面は、あらためてシャモニー周辺のレ・パンで撮影したことも告白した。この件に関してセニユールは口をつぐんだままである。

(写真撮影者 尾形好雄)

## 編集後記

理由は不明だが1日のコロナの感染者がどんどん減り9月30日で緊急事態宣言が解除されました。これで、県境を越えた移動の自粛要請がなくなったので、大手を振って山に行くことができるようになり非常にうれしいです。公民館等の施設も通常営業され、先日久々に集まって例会を開催することができました。ただし、完全解禁ではないので、例会後の飲み会もありません。また、宿泊の山行では1人1テントで食事もすべて各自で作り、離れて食べます。こんな状態ですが、トンネルの出口付近まで来た感じがわかるので気分的には上向きです。

(蛭田伸一)



**トレランJAPAN**  
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031  
品川区西五反田6-3-23-205  
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第631号

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 令和3年10月15日  
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
Japan Sport Olympic Square 807  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
FAX 03-5843-1635

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん

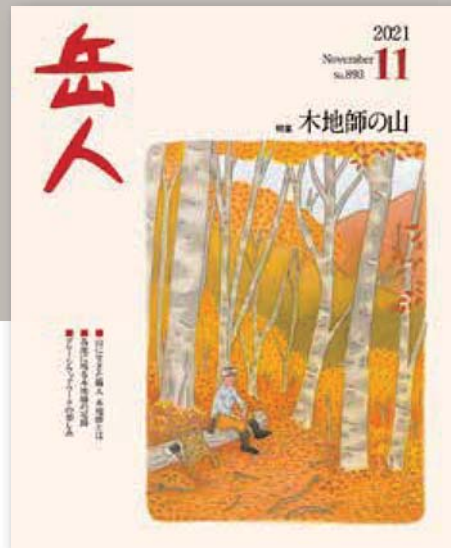
山と人、時代をつなぐ「岳人」

11月号  
発売中

【特集】木地師の山

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)



年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格 12冊

年間購読なら 12冊

1冊分  
おトク!

~~10,560円~~ (税込)  
11,616円(税込)

→ 9,680円 (税込)  
10,648円(税込)

年間購読特典



さまざまなシーンで活躍する  
超軽量ヘッドランプ。  
※単4形乾電池1本含む重量

全国1,900カ所以上で  
ご優待!

岳人カード



全国の温泉や山小屋など提携施設で  
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>  
<https://www.gakujin.jp/>



全国の  
モンベルストア  
でも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals) とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
 12 持続可能な消費と生産 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	 1 貧困をなくそう 2 質の高いエネルギーを普遍に 3 健康と長寿を追求しよう 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 6 安全な水とトイレを世界中に	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	 7 質の高いエネルギーを普遍に 8 質の高い成長を促進しよう 9 産業とイノベーションに力をつぎ込む 10 人や国ごとの格差をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを	・次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

**MS&AD** 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」  
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからお申込みいただけます